

研修で
学校が
変わる

外国語教育小中連携研修

まとめ

令和3年11月25日(木)

Web会議による遠隔研修(会場校)



「言語活動の充実を目指す 外国語教育の授業づくり」

講師 山田 誠志 氏(文部科学省 教科調査官)

【研修のねらい】

■ 小中9か年を見通した外国語教育の在り方について理解し、小中連携して外国語教育を推進する実践力の向上を図る。

外国語教育における「言語活動」とは？

- ・ 知識及び技能を活用し、思考力・判断力・表現力を育成するために取り組ませるもの
- ・ コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて考えなどを英語で伝える活動

活動前に
示し過ぎない

小学校中学年では、OutPutを
急がず、英語を聴く時間を大切に

ネイティブスピーカーの発音
は必ずしも世界標準ではない

All English でやらなくていい

語彙や文法は
決まっていない

「教科書を閉じたとたんじゃべれなくなる」
ということがないようにするために

- ① 単元終末の活動を定める
- ② 発話を 求めすぎない
- ③ 全て行おうとしない
- ④ 見ずに取り組むこともさせる
- ⑤ 単元終末と同様の活動を繰り返す
- ⑥ 教科書掲載の活動を必要に応じてマイナーチェンジする
- ⑦ 当該単元の言語材料 以外の言語材料 の使用を促す
- ⑧ 教科書本文 の扱い方を工夫する

教科書本文の途中で少し離れて
身近な内容で自己表現を

小学校は⑤まで

発信語彙は
何度でも

教師の英語によるユーモアで児童生徒が笑う授業が理想

明日への想い(小学校教員)

○言語活動とは何か、どう単元を構成していったらよいか例をあげながら説明して下さったのでわかりやすかった。単元終末の活動をイメージしながら構成していきたい。

○今まで自分が行っていた活動では言語活動には当たらないものがほとんどであったと気づき、目的場面状況を子どもたちの生活の中から適切に設定し行うようにしたい。

○相手に伝える内容を教師が提示するのではなく児童自らが考えて表現させること、単元のゴールを見据えて練習を積み重ねていくことが大切だと感じました。

○中学年の外国語活動を担当しているので、自分自身も楽しみながら、子どもたちが英語に親しみ、楽しいと思える授業作りをしていきたい。

明日への想い(中学校教員)

○教科書の言語活動をマイナーチェンジして行うということについて、生徒の実態に則して言語活動を考えていきたい。

○指示英語だけでなく、もっともっと生きた英語を使って、生徒とのやり取りをしていこうと思います。

○本研修を通して、自分の授業を振り返るきっかけを与えて頂けたことがよかったです。自分自身がもっと英語を楽しく使用する場面を増やしていきたいと思いました。

○校区の小学校の外国語の様子を知ることができたので、9年間を見通して生徒の英語力を伸ばしていきたいと思えます。